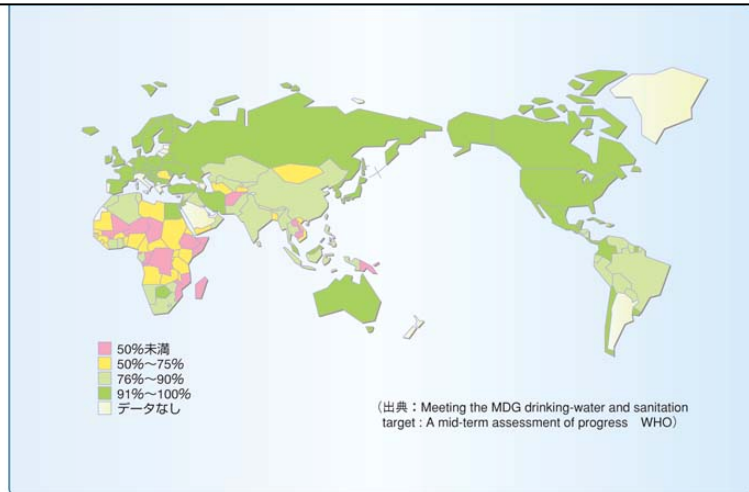


レビュー（国際協力等を通じた水道分野の国際貢献）

【現 状】

○日本が先行している水供給分野におけるアジアへの貢献

○安全な飲料水を利用できない人口（2004年度現在）
アジア・太平洋地域：7億人（世界約11億人の約60%）



国連・ミレニアム開発目標(MDGs)

2015年までに、安全な飲料水及び衛生施設を継続的に利用できない人々の割合を半減する。

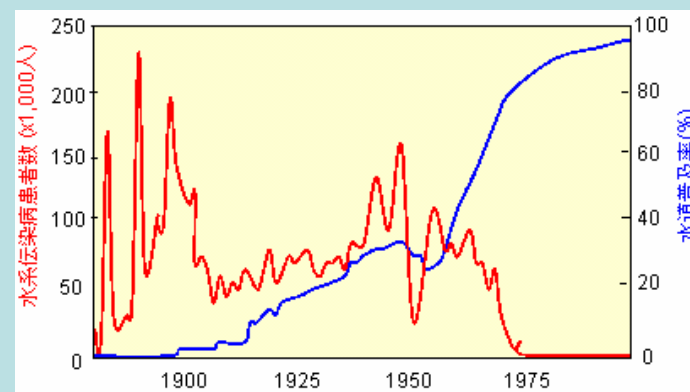
※国連・ミレニアム開発目標(MDGs)とは、2000年9月の国連ミレニアム・サミットで採択された国連ミレニアム宣言と1990年代に開催された主要国際会議等で採択された国際開発目標を統合し、一つの共通の枠組みとしてとりまとめられたもの

日本の技術・経験

○水系伝染病患者の削減に、水道も大きな貢献

○日本は、全国どこでも蛇口から飲用可能な水が供給されている(2005年度現在水道普及率97.2%)

○技術面、経営面において世界トップクラスの水道を作り上げてきた経験や技術を活かし、アジア地域における安全な飲料水確保に向けた取組を進めることが重要



水道普及率と水系伝染病患者との関係

レビュー（国際協力等を通じた水道分野の国際貢献）

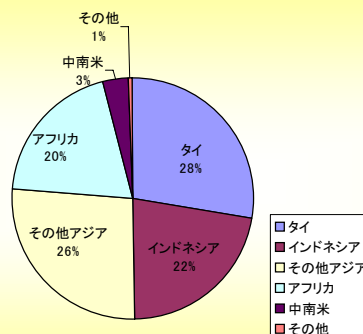
【現 状】

○水道分野でのヒト・カネに係るアジアへの貢献実績

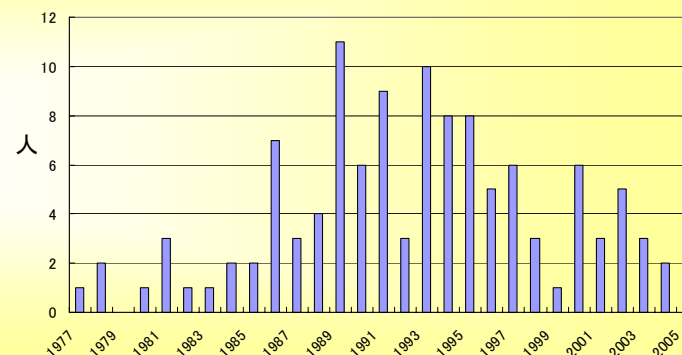
アジアへのヒトの流れ(長期専門家派遣)

○現地での技術協力に携わる長期専門家として、77年から05年までの間に118名をアジア地域に派遣。

○77年から05年までの長期専門家派遣事業において、75%以上をアジア地域(主にタイ、インドネシア)へ派遣。



日本からアジア地域への長期専門家(水道分野)の派遣数

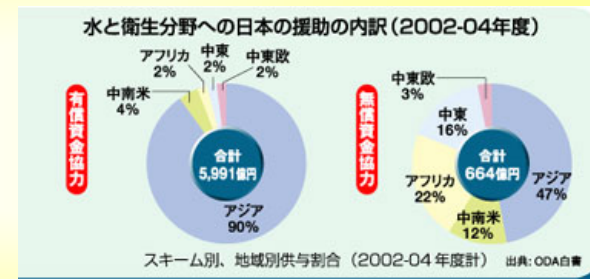
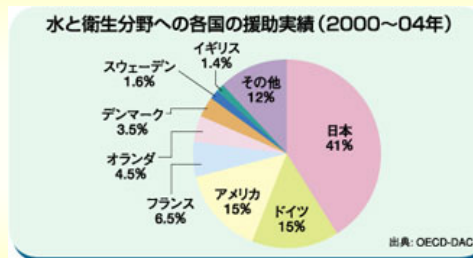


アジアへのカネの流れ(ODA)

○2000年から2004年までの5年間で水と衛生分野におけるDAC諸国の二国間ODA実績の41%を占める。

○水と衛生分野への日本の援助のうち、有償資金協力では90%、無償資金協力では47%がアジアに対して行われている。

日本のODAでの取組



出典: 水と衛生に関するパートナーシップ・イニシアティブ (WASABI)

➡ 日本は、アジアにおける衛生的な水供給に関して重要な役割を果たしてきた。

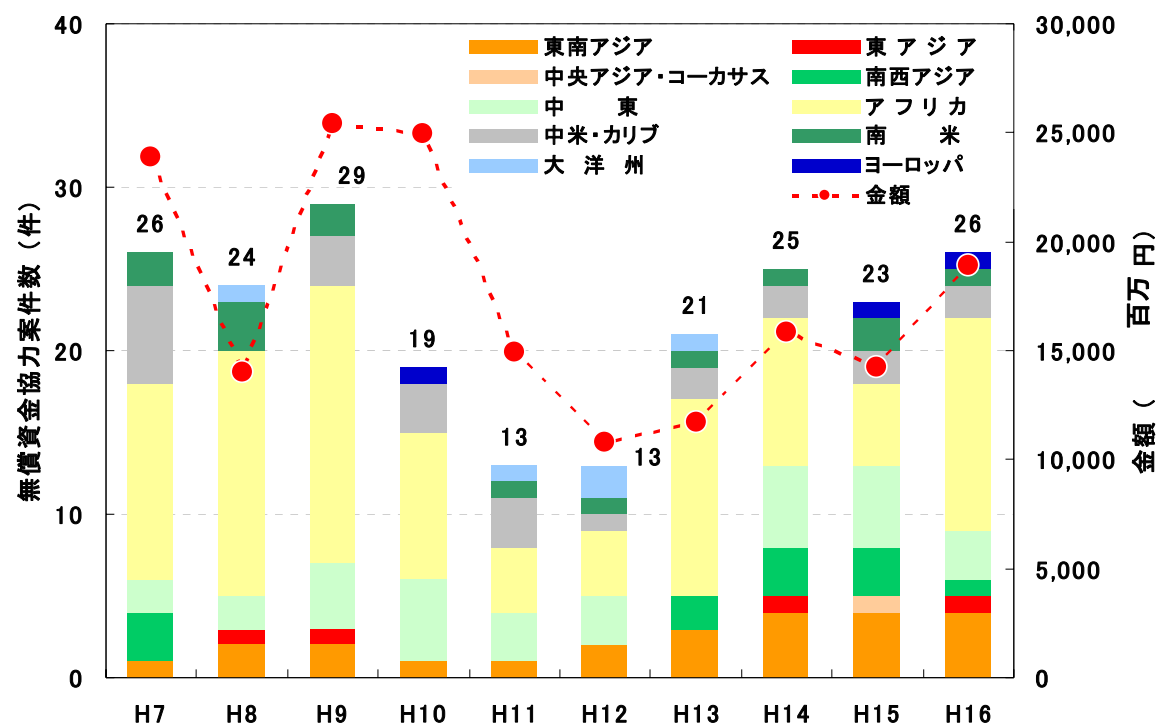
レビュー（国際協力等を通じた水道分野の国際貢献）

【現 状】

○無償協力案件の推移



日本の協力で拡張・改修された
プンプレック浄水場(カンボジア)



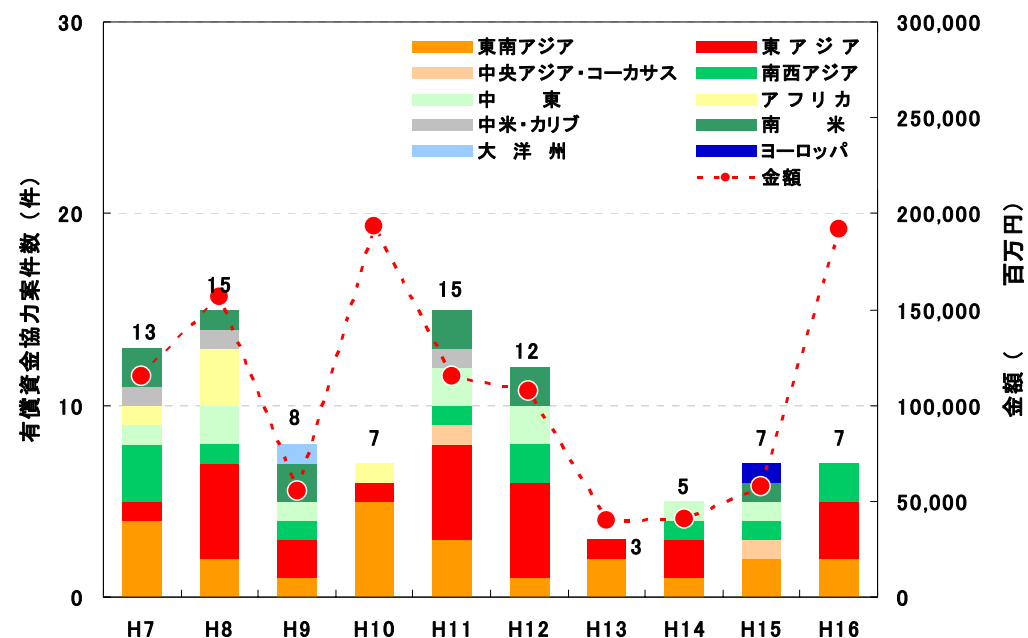
図表：厚生労働省健康局水道課

写真：ODA新聞

レビュー（国際協力等を通じた水道分野の国際貢献）

【現 状】

○有償協力案件の推移



年度(平成)	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	合計 (案件数)
東南アジア	4	2	1	5	3	1	2	1	2	2	23
東アジア	1	5	2	1	5	5	1	2		3	25
中央アジア・コーカサス					1				1		2
南アジア	3	1	1		1	2		1	1	2	12
中東	1	2	1		2	2		1	1		10
アフリカ	1	3		1							5
中米・カリブ	1	1			1						3
南米	2	1	2		2	2			1		10
大洋州			1								1
ヨーロッパ									1		1
合 計	13	15	8	7	15	12	3	5	7	7	92

出典：厚生労働省健康局水道課